



誰一人取り残さない社会 SDGsとは？

2015年9月に国連サミットで採択された、Sustainable Development Goals、日本語にすると「持続可能な開発目標」これがSDGsです。全世界・社会全体で2030年迄に持続可能な社会を実現するために、17のゴールと、さらに詳細な169のターゲット明記し、誰一人として取り残さずに達成しようというものです。

これだけを聞いてしまうと、国連で決めたことなど、私たちには関係ないことと考えてしまいがちです。しかし、そうではありません。私たちの身近なところでいえば、レジ袋などのゴミが海を汚染していることから、環境を守るためにエコバッグの利用が進んでいたり、飲食店が導入する木製のストローなどは、この一環です。私達自身の子供や孫、さらには、その先の世代も安心して暮らせる未来が続くために、今から私たちが活動していかなければならない。このことがSDGsであることを理解してください。



17のゴール

SDGsバッジの17色は17のゴールを意味しています。前述の国連サミットでは、「経済・社会・環境という持続可能な開発の三側面に焦点を当てる」このことの重要性が強調されました。経済でいえば、誰もが豊かな暮らしを継続的に営むことが可能な経済。すべての人が尊厳をもって生きられる社会。地球環境を守りながら暮らせる世界。この三側面の内容が17のゴールに散りばめられています。

目標1：貧困をなくす 目標2：飢餓をなくす 目標3：健康と福祉 目標4：質の高い教育 目標5：ジェンダー平等
目標6：きれいな水と衛生 目標7：誰もが使えるクリーンエネルギー 目標8：ディーセント・ワークと経済成長
目標9：産業、技術革新、社会基盤 目標10：格差の是正 目標11：持続可能なまちづくり
目標12：持続可能な消費と生産 目標13：気候変動へのアクション 目標14：海洋資源 目標15：陸上の資源
目標16：平和、正義、有効な制度 目標17：目標達成に向けたパートナーシップ

協同組合とSDGsの関係

協同組合という組織の本質は「困っていることをみんなで協力して解決していくこと」そして、その精神は「一人は万人のために、万人は一人のために」とSDGsが行動理念として掲げる「誰一人取り残さない」という理念と非常に近いものがあるのです。国連は、SDGsの担い手を「地球を救う機会を持つ最後の世代」と位置付けています。また、SDGs実施指針に協同組合は、重要な役割を持つ組織として位置付けられています。

誰一人取り残さない社会

SDGsは、広い範囲を全体的にカバーしています。性別や年齢、企業などの前に、ひとりひとりの意識によって、誰一人取り残さず、みんなでゴールを目指そうというものです。SDGsが掲げる基本理念「No one will be left behind」。「誰一人取り残さない、誰一人置き去りにしない」ということから、もっとも弱い立場の人々に焦点をあて、不平等や格差をなくした究極の社会づくりを目指そうというもののなのです。